豊橋市

報道発表資料

令和５年９月22日（金）
「文化のまち」づくり課

第30回丸山薫賞が決定しました！

1　趣旨

現代詩に多大な貢献をした本市ゆかりの詩人丸山薫の業績を永く顕彰するため、全国から公募した詩集の中から優れた現代詩集に「丸山薫賞」を贈ることにより、詩文化の発展に寄与するとともに、薫り高い文化都市の創造に資することを目的に、没後20年を期して平成６年に創設したもので、本年は30回目になります。

2　受賞詩集

『ヘビと隊長』　著者：桑田今日子（富山県富山市在住）
令和４年11月20日（詩遊社 刊）

3　賞

正賞楯及び副賞100万円

4　選考内容

（1）対象詩集　令和４年４月１日から令和５年３月31日までに刊行された現代詩集
（2）募集期間　令和５年４月１日から令和５年６月30日まで
（3）選考対象　189冊
（4）選考日　令和５年９月１日(金)
（5）選考委員　以倉紘平（いくらこうへい）　高階杞一（たかしなきいち）　高橋順子（たかはしじゅんこ）　中本道代（なかもとみちよ）　八木幹夫（やぎみきお）

5　贈呈式

（1）開催日時　令和５年10月20日(金)午後１時30分より
（2）開催場所　ホテルアソシア豊橋　５階　「ザ　ボールルーム」

6　丸山薫賞パネル展

（1）開催日時　令和５年10月14日(土)から令和５年10月31日(火)まで（月曜日、27日は除く）
午前９時30分～午後７時（土・日・祝日は午後５時まで）
（2）開催場所　中央図書館（羽根井町）
（3）内　　容　歴代受賞者や丸山薫の愛用品等を紹介

※ 選考経過と授賞理由及び受賞者の略歴等については別紙のとおり。

問合せ
「文化のまち」づくり課　課長補佐　木全　功（電話51-2876）

SDGs未来都市 豊橋市

別紙

選考経過と授賞理由

（選考委員　高階 杞一　記）

第 30 回丸山薫賞の選考は本年 9 月 1 日（金）、豊橋市役所内で行われました。
選考委員は以倉紘平、高階杞一、高橋順子、中本道代、八木幹夫の５名。
事前に候補詩集として挙げられたのは以下の９冊（並びは書名の 50 音順）。全員が女性で、これは本賞創設以来初めてのことではないかと思います。

新井啓子『さざえ尻まで』（思潮社）
草野早苗『祝祭明け』（思潮社）
山本幸子『父を抱く』（編集工房ノア）
唐作桂子『出会う日』（左右社）
山崎るり子『猫まち』（ふらんす堂）
淺山泰美『ノクターンのかなたに』（コールサック社）
竹中優子『冬が終わるとき』（思潮社）
桑田今日子『ヘビと隊長』（詩遊社）
坂多瑩子『物語はおしゃべりより早く、汽車に乗って』（書肆子午線）

まず各委員が順に自分が推す詩集についての推薦理由を述べ、一巡したあと、自由に候補詩集９冊について意見を交わし合った。その結果、竹中優子、桑田今日子、坂多瑩子３氏の詩集が最後まで残り、ここからさらに議論を重ねていった。
竹中優子『冬が終わるとき』は、他者と一緒に生きているという情感が丁寧に緻密に描き出されている。安易に近くなりすぎない距離感の中でどんな関係性も肯定していく眼差しの低さがあり、他者への愛が感じられる。といった推奨する発言があった一方で、詩の流れがブツブツ途切れ、理解しがたい所が多い。実験的な意欲に満ちた詩集なので、本賞より新人賞的な賞の方がこの詩集にはふさわしいのではないかという意見も出た。また、作者は短歌も同時にやっており、歌壇の賞もいくつか受賞しているとのこと。それを踏まえて、この人には詩よりも短歌の方が合っているのではないかという意見も出た。
桑田今日子『ヘビと隊長』は第１詩集。日常を題材にしながら、そこから微妙にはみ出している。そのはみ出し具合が独特なユーモアを生んでいる。どの詩にもほっこりとしたぬくもりがあり、作者の優しさが伝わってくる。そうした推薦理由に賛同する委員も多かった。一方で、詩集全体としては少々軽すぎるのではないかという意見もあった。
坂多瑩子『物語はおしゃべりより早く、汽車に乗って』は、アイロニーとユーモアが絶妙に混ざりあい、さらに行から行への飛躍も絶妙で、それらが合わさって独自の魅力を生んでいる。また、さまざまな〈死〉が詩集全体の通奏低音となっており、それがこの詩集の深みを増している。そうした肯定的な意見の一方で、比喩や修辞に作為の跡が見られるのが残念という否定的な意見もあった。

こうした議論を交わしながらも１冊に絞ることができず、最後は投票で決めることになった。『冬が終わるとき』と『物語はおしゃべりより早く、汽車に乗って』がそれぞれ１票、『ヘビと隊長』が３票という結果になり、桑田今日子詩集『ヘビと隊長』を授賞作とすることに決定した。

最後に収録作品中、心に残った１篇を紹介します。

「叔母さんの家に遊びに行った帰り道／夜のバス停にうずくまる人影があった／お父さんくらい大きい男の人が泣いていた／大人なのに、声を出して泣いていた／「指を差したらだめよ、大人は色々あるんよ。」／って、お母さんはマフラーをもう一巻きし／私の小さな手を引っぱって行った／寒空のオトナの方向へ向かって／／その日、私は初めて／眠れない夜を過ごした」（「夜のバス停」全）

（文中敬称略）

受賞者 桑田今日子氏の略歴等

(1) 経歴

1959 年福岡県北九州市生まれ。都留文科大学卒。介護福祉士。富山県富山市在住。2012 年、大阪文学学校通信教育部にて、冨上芳秀氏に師事。同氏主宰の詩誌「詩遊」に 39 号より同人として参加。「ヘビと隊長」は第一詩集。

(2) 受賞の感想 （受賞者 桑田 今日子）

この度は、歴史のある丸山薫賞に選んでいただき、大変ありがとうございます。選考委員の先生方と豊橋市の関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。一生に一度の記念のつもりでまとめた初心者マークの詩集でした。受賞のお知らせをいただき、本当にびっくりいたしました。光栄に思うと同時に身が引き締まる思いがしております。日本の偉大な詩人である丸山薫先生に、もっと頑張りなさいと励ましていただいた気がしております。これが終わりでなく、始まりと思って、精進していきたいと思います。

(3) 受賞作品について（受賞者 桑田 今日子）

詩を読んだり書いたりするきっかけは、二十代のころ、心の拠り所を求めて、書店で何気なく手にした現代詩の本でした。結婚、移住後、遠ざかっていましたが、再び、心の糧を求めて、大阪文学学校の通信教育部、冨上芳秀先生に学び、幸運にも参加させていただいた詩誌「詩遊」で、十年間発表した詩を、一生に一度の記念のつもりで詩集にまとめてみました。詩集のあとがきにも書きましたが、否応なく過ぎていく日々のなか、自分の人生を、詩を通じて捉えなおし、煌めく生の瞬間を取りこぼさないよう、これからも詩を書き続けていきたいと思います。